

スピーカーアキュライザーの導入(29)  
—アナログ対デジタル(13)—

1. 始めに

前報(28)に引き続き、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

試聴音源はイザイの6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタに固定し、アナログ盤、CD、Spotify、STAGE+から選択します。

アナログ盤

ドイツグラモフォン 486 4177 (45 回転盤)

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

CD

hyperion CDA679993

アリーナ・イブラギモア (ヴァイオリン)

キングインターナショナル KK C057

米元響子 (ヴァイオリン)

UCJ UCCY-1048

千住真理子 (ヴァイオリン)

EXTON OVCL-00179

戸田弥生 (ヴァイオリン)

BOSCO MUSIC VBC-8049

柴田由貴 (ヴァイオリン)

Spotify

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

千住真理子 (ヴァイオリン)

STAGE+

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

ヒラリー・ハーンのアナログ盤は、ディスクグラフィック(2023No.191)で報告します。詳細は、この報告を見ていただくとして、音質的にはヴァイオリンの録音とし

ては最上の部類であり、擦弦音と胴鳴り、ピチカートと余韻、さらには収録環境の残響なども忠実に捉えられており、使用楽器はヴィヨームのはずですが、あたかもガルネリのような妖艶な表現の音色です。以後の音源はこのレベルを基準に比較していきます。

アリーナ・イブラギモアの CD は、演奏会で求めてきたもので、[ディスコグラフィー【2022No.186】](#)で報告しています。

米元響子の CD は、演奏会で求めてきたもので、[ディスコグラフィー【2019No.154】](#)で報告しています。

千住真理子の CD は、演奏会で求めてきたもので、[ディスコグラフィー【2015No.25】](#)で報告しています。

戸田弥生の CD は、演奏会で求めてきたもので、[ディスコグラフィー【2015No.30】](#)で報告しています。

柴田由貴の CD は、演奏会で求めてきたもので、[ディスコグラフィー【2021No.174】](#)で報告しています。

演奏の詳細は上記の引用サイトをみていただくとして、全般的に以上の CD は、イブラギモア以外は、仮想アースやスピーカーアキュライザーの導入以前の試聴でしたので、CD としては様変わりしています。

アナログとの音質面で比較する対象として、最新収録のイブラギモアの CD で比較しますと、細かい表現など、かなりアナログに近い印象です。

また、オリジナル仕様に近いストラディヴァリウスデュランティの千住真理子の CD で比較しますと、以前の印象とは様変わりしており、CD でありながら、演奏スタイルや細かい表現は別として音色はアナログに近い印象です。

ヒラリー・ハーンの Spotify は、STAGE+と同時期に公開されました。上記の同じマスターからの音源のアナログ盤と比較しますと、やはり細かい表現力で及ばず、響きが単調なきらいがあります。

千住真理子の Spotify は、上記の CD と同じマスターからの配信版ですが、以前の印象では CD と Spotify は、かなり差があったのですが、LAN iSilencer や仮想アースの導入で CD に近づいた印象です。

ヒラリー・ハーンの STAGE+は、STAGE+を楽しむ(38)で報告しています。上記のアナログ盤と同じマスターからの音源と比較しますと、詳細は上記の報告をみていただくとして、比較試聴してもアナログ盤に相当肉薄しています。敢えて及ばないところを挙げると、音のしなやかさ、柔らかさであり、耳あたりはアナログに及びません。しかしながら、同じマスターからの Spotify よりは、ディテールの再現では勝っています。

#### 4. まとめ

音源の種類と再生ルートが異なる音源が、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上して様変わりしています。

ヒラリー・ハーンの最新収録の45回転アナログ盤の優位性は変らないまでも、STAGE+はアナログに近づいています。その他のCDも様変わりしており、従来よりはアナログに近づいています。配信は、従来、CDに届かないものと思っ  
ていましたが、ヒラリー・ハーンのSTAGE+は、新旧5枚のCDと同等か、あるいはCDを超えたレベルにも達しています。

Spotifyは、以前はCDやSTAGE+に随分と水を空けられていましたが、LAN iSilencer導入後、これらに近づいています。

今回は、フォーマット違いの多くの演奏を聴いたわけですが、演奏スタイルや音質の違いがよく分かるようになっていきます。

以上